

第 23 回日本野生動物医学会大会・第 50 回獣疫学会学術集会

連携公開シンポジウム

野生動物の保全と感染症疫学

～タスマニアデビルの DFTD 対策から学ぶ

我が国のネットワーク構築と疫学視点の導入～

平成 29 年 9 月 2 日 (土) 9:00～12:00

日本獣医生命科学大学 E 棟 1 階 E111 講義室



【シンポジウム概要】

野生動物の保全と感染症疫学～タスマニアデビルの DFTD 対策から学ぶ 我が国のネットワーク構築と疫学視点の導入～

主催：大会事務局、国際交流・アジア保全医学会委員会

共催：獣疫学会

コーディネーター：加藤 卓也（日本獣医生命科学大学）

高見 一利（大阪市天王寺動物公園事務所）

太田 香織（多摩動物公園）

日時：9月2日（土）9:00～12:00

場所：E棟1階 E111 講義室

趣旨：動物園および野外環境における症例検討やサーベイランスに関する結果は数多く報告されている。このような多くの個別の情報を集約し、疾病制御や予防に活かしていくために、ネットワークの構築と疫学的視点の活用が求められる。今回、タスマニアデビルのデビル顔面腫瘍性疾患（DFTD）対策をモデルケースとして、野生動物医学領域にて遭遇する事象をどのようにデータとして活用するかについて獣疫学的視点をふまえて議論する。

座長： 坪田 敏男（北海道大学／日本野生動物医学会会長）

杉浦 勝明（東京大学／獣疫学会会長）

演者：

1. Saving the Tasmanian devil; a lesson in conservation management

（タスマニアデビルを救う；保全管理における教訓）

David Pemberton（Save the Tasmanian Devil Program Manager）

2. ツシマヤマネコ（*Prionailurus bengalensis euptilurus*）における FIV および FeLV 感染症制御のためのイエネコ対策について

羽山 伸一（日本獣医生命科学大学）

3. 野生動物感染症ネットワーク構築の進捗 鳥インフルエンザウイルス保有状況調査データの活用ーリスクマップの作成と侵入経路の解明ー

大沼 学（国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター）

4. 感染症対策につなげるための情報活用のポイント：疫学的手法と応用事例の紹介

早山 陽子（農研機構 動物衛生研究部門 ウイルス・疫学研究領域）